別紙様式1

令和6年度　学校評価表

（ 中間 ・(最終) ）

学校名　三原市立西小学校　　校番（ 05 ）

a 学校教育目標	地域に愛着と誇りを抱き， 夢の実現に向け自ら学びを求め，行動できる子どもの育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命）　自分を愛し，夢を語る児童の育成 【ビジョン】（自校の将来像）　地域・保護者の信頼を得，心から「西小で学んで良かった」「通わせて良かった」と誇りに思われる学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力の育成	主体的に学び合う児童を育成し，学力の向上を図る。 「かしこく」自ら学ぶ子ども	「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を通して，本校で育成を目指す資質・能力をもった，自ら学ぶ児童の育成を図る。	本校の研究主題に全員で取り組み，仮説の検証のために計画的な実践研究を行い，研究主題に迫る授業がどこまでできたかを互いに検証する。	『主体的な学び』に関する児童アンケート肯定的評価 ・論理的思考力に関するアンケート	90%以上	93.0%	90.7%	100.8%	A	論理的思考力に関するアンケートの結果、とても35.5%、まあまあ27.6%となり、根拠に基づいて発言することを意識することが定着されつつある。 しかし、書かれていることと自分の経験や知識を結び付けたり、情報を整理・分析して考えを深めたりすることには課題がある。	・発言の際、根拠を示して説明することを意識づける。 ・自分の経験や知識を想起させ、具体的に想像できるようにさせる。 ・根拠を複数挙げる発言例を示し、情報を結び付けて考えることを指導する。また、学年を通して、三角ロジック（根拠、理由付け、主張の三点セット）での発表を意識づける。 ・条件に沿ったふり返り活動（R80）を習慣化させる。	6/6 人			・個の達成状況を把握しながら学力向上に向けた取組を行っている。 ・情報量の多い社会の中、如何に自分の考えを明確に伝え、人の意見をちゃんと受け止める能力を養っていくか、課題解決力が必要。 ・三角ロジック等意識して日常的に取り組んだ成果が出ている。「読む」課題解決の為読書活動の継続と共に家庭での生活を見直す必要もある。 ・課題の例示、読解力（読書量）の向上を目指す取組が必要。 ・小学生は基本を習う場なので「読んで内容を理解する事」が大切。「読む経験」を増やすことが重要。
			西小学校全校で読解力を高めるドリルに取り組み，本文や資料を根拠にして読み取る力を高め，学年課題に応じた基礎学力の定着を図る。	①全国学力・学習状況調査国語科の平均正答率（国語） ②NRT国語偏差値平均 ③学期毎単元末テスト「読むこと（思判表）」平均	①県対比105%以上 ②52.6以上 ③80点以上の学級80%以上 ④30点未満の児童3%以下	①101 ②50.6 ③100% ④1.2%	①101 ②50.6 ③92.9% ④0.7%	①96.2% ②95.4% ③116% ④429%	①B ②B ③A ④A	①全国学力・学習状況調査国語科の平均正答率は70（県平均69）だった。内容ごとに見ると、「話す・聞く」60.3（県－1.0）、「書く」71.9（県＋1.4）、「読む」73.0（県＋0.4）となり、「話す・聞く」ことが県平均を下回っており、「読む」ことの差も県平均＋8を下回っていた。 ②3年生は昨年度を上回っているが、4、5、6年生で昨年度を下回っている。 ③学期毎単元末テストは、平均80点以上の学級は92.9%（全校平均点85.1点）であり、目標を達成することができた。一方、学期末テスト「たしかめよう」では、平均80点以上の学級は85.7%（全校平均点84.2点）であり、初見の本文にまだ課題が残っていることが分かった。	・日常の授業やふり返り（R8O）に条件に沿って書くことを取り入れる。 ・「精査・解釈」の場面で想像したことを書く場面を設定し、表現させる。 ・単元末テストを実施する前に、学習内容が理解できているかを復習する時間を学年で設定する。 ・クロームブック等を活用した個別最適型の学習を進めていく。 ・宿題の量などを調節し、直しまでやり切らせる。 ・算数科では、習熟度別の授業を行い、学力の定着を図る。 ・各学年で学力テストの分析を行い、学年の課題を明確にした上で、計画を立て実践する。	6/6 人			
豊かな心の育成	様々な人や事象とのかかわりを通して，社会性や豊かな人間性を培う。 「なかよく」心豊かな子ども	音楽活動と読書活動等の充実と奉仕活動等を通して，豊かな感性・豊かな心の育成を図る。	学年（学級）ごとに児童の実態に応じた合唱に取り組み，仲間意識や表現力の育成を図る。また日常的な音声表現活動（詩や短歌・俳句等の音読・暗唱）を通して，自己表現に自信を持たせる。	①「自らへの自信」に関する児童アンケート肯定的評価 ②学期に1回以上の俳句を書く・発表する活動	①80%以上	①83．7% ②100%	①88% ②100%	①10 3% ②100%	A	・「ぜんぜんあてはまらない」と答えた児童が全校で7.5%（17人）いる。また高学年の否定的評価が高くなっている。 ・道徳や学活、帰りの会を中心に、達成感・充実感をもたせる活動に全体で取り組めたが、自己肯定感が低い児童へ個別の支援ができていなかった。 ・「ぜんぜんあてはまらない」と答えた児童が全校で5．9%（16人）いる。委員会やクラブ活動などで高学年が活躍する場を作り、肯定的評価を少し上げることができた。	・今後も、達成感・充実感を持たせるような活動を仕組んでいく必要がある。 ・引き続き「今日のキラリ」のような全体の雰囲気や個人の自己肯定感を高める活動を行っていく。 ・委員会やクラブ活動などで高学年が活躍する場を作り、高学年の肯定的評価が高くなる取組を、各学年と仕組んでいく。	6/6 人			・評価が向上したことは取組の成果。 ・道徳や特別活動を通して児童の肯定感を高めることが大切で継続が必要であり、学級の雰囲気作りも不可欠。 ・役割分担を担う事で各々を良い表現で評価すれば達成感や充実感を皆が持てる。 ・自己肯定感は学校・家庭共に育む必要がある。
		特色ある地域の学習材や人材の活用と交流を通して，地域を想う心情を育てるとともに，社会貢献意識と規範意識の向上を図る。	特色ある地域の学習材や人材の活用，交流を通して，「ふるさと学習」やボランティア活動に全学年で取り組み，社会貢献意識や規範意識の向上，お世話になった方々への感謝の意を表す活動を通して，ふるさとを愛する心情と相手意識を育てる。	「貢献意識」に関する児童アンケート肯定的評価	90%以上	94.9%	93.9%	104%	A	・特別活動等で、役割を果たすことに対する達成感・充実感をもたせることができた。 ・「ぜんぜんあてはまらない」と答えた児童が全校で1.3%（3人）いた。 ・「ぜんぜんあてはまらない」と答えた児童が全校で3.6%（13人）いた。引き続きふるさと学習や感謝の会等で児童が活躍する場を増やし、役割が果たせる活動を各学年と仕組んでいく。	・友達を肯定的に評価するような「今日のキラリ」のようなものに引き続き取り組んでいく。 ・ふるさと学習や感謝の会等で児童が活躍する場を増やし、役割が果たせる活動を各学年と仕組んでいく。 よりよい学校づくりに関する児童の考えを児童会活動を通して学校に反映させ、児童に達成感・充実感を持たせる。	6/6 人			
健やかな体の育成	自らの体力と健康を向上させ，自己管理能力の育成を図る。 「たくましく」健やかな子ども	組織的・計画的実施により児童の体力の向上を図る。	児童アンケートや体力テストの調査の結果分析をもとに，課題克服のための取組（校内研修，外部講師による児童への直接指導，小中連携等）を充実させ，教職員の意識向上と児童の体力向上を図る。	①体力テスト全国及び県平均値以上達成率 ②児童アンケートの外遊びをすることへの肯定的評価	①50%以上 ②80%以上	①25% ②83%	①25% ②80.8%	101%	①D ②A	①体力テストは全国平均を上回った項目は25%であった。 ② 外遊びの肯定的評価は80．8%であった。（前学期2%↓） ①の方では特に女子の記録とアンケート調査での運動に対する意欲が低い傾向が見られた。 ②の方では否定的な評価の児童が19%であり、前学期に比べ2%↓した。目標値を達成することができた。フリスビーなどの用具が増えたことで楽しく外遊びができている様子が見られた。しかし、道具の使い方や授業時間になった時の切り替えの場面で課題が見られた。	・体育委員や教員による休憩中の外遊びの声掛けをしたり、児童朝会を利用してルールの確認をしたりする。 ・縄跳び大会や体力測定の記録を体育委員会が表彰するなどの体を動かすイベントを取り入れ、体を動かす楽しさを味合わせたり、目標をもって運動に取り組ませるようにする。また、体育の授業の始めにも体力アップにつながるような運動に毎回取り組んでいくようにする。	6/6 人			・学校全体で外遊びや運動の大切さ・楽しさを味合わせる取組は良されているので、体育授業前の体力アップ等体育の授業改善も考えられるのではないか。 ・昔と違い公園などで遊ぶ子供が少なくなり、子供の遊び方が上から下へと伝わらなくなってきている。
		食教育や保健・安全教育の推進により，自己管理能力の育成を図る。	保健指導や委員会活動などを通して，児童に食物アレルギー対応などを含む食教育や保健・安全教育の改善・充実を図り，児童の自己管理能力の育成を図る。	『食育』『保健・安全』に関する児童アンケート肯定的評価	75%以上	80.0%	80.0%	100%	A	・給食を時間内に食べきっているのは80%であった（前年比2%↑）。2学期と変わらず80%（前年度に比べ8%の改善ができ）であり、目標値を達成することができた。しかし、各学年の様子を見ると食器の準備や片づけに課題が見られた。 ・アレルギー対応についての研修を4月に行い、給食対応が必要な児童についての情報共有を行った。さらに委員会の放送や給食の時の指導の仕方を検討し、対応の確認を行うことができた。	・準備を早く終わらせるための配り方や時間の使い方の指導を継続して行っていく。また、片付けるときのポイントも教員の間で共有し、指導を行っていく。また、配膳台のあるランチルームでの指導も行っていく。 ・アレルギー対応が必要な児童を再度職員の間で共有する。また、診断がなくてもアレルギーのような症状が出た場合の対応も職員全員で確認する。	6/6 人			・登下校で歩くことを増加させる案はないものか。 ・給食での時間配分は必要だが児童にとって"追い立てられる"感覚に陥り不安感が強まるのではないか。
働き方改革の推進	新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制を構築する。	「公立学校の教育職員の業務量の適切な管理その他教育職員の服務を監督する教育委員会が教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置に関する指針」に基づいた取組の構築と推進	・教職員の時間管理能力の向上 ・学校経営会議や部会を通して業務の精選及び学校行事等の見直しや改善	・1カ月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が45時間を超えないようにする。 ・1年間の在校時間が総時間から条例等定められた勤務時間の総時間を減じた時間が360時間を超えないようにする。	100%	84.6%	90.8%	90.8%	B	○各月45時間を超えない達成率 ※（ ）内の数字は令和5年度 4月76.9%（73.0） 5月69.2%（80.7） 6月73.0%（65.3） 7月92.3（100.0） 8月100.0%（100） 9月96.1 %（96.1）10月81%（92.3） 11月92.3%（100.0） 12月92.3%（88.0） 1月92.3 %（100） ○7月以降南校舎長寿命化改修工事に関わっての業務も加わり、前年度比較が下がっている月がある。前期の課題（職員の欠補・児童個別対応事案）に若干改善が見られたところもあるが業務改善には至っていない。	○学年部での業務内容の標準化の見直し ・役割分担の明確化 ・業務内容の見直し ・既存のデータの活用 ○積極的生徒指導の推進 ・自己決定の場の設定 ・共感的人間関係の構築 ・自己肯定感の育成 ○個々の業務遂行能力と時間管理能力の育成 ・短期スパンによる計画的な業務遂行 ○会議の精選と周知方法の改善 ・ICTの効果的活用 ・スケジュール管理の徹底 ○コミュニティースクール実施 ・地域の教育力の活用	6/6 人			・勤務時間を意識した働き方に努めている。 ・前年度より改善されており評価すべきである。 ・積極的生徒指導推進の三項目ではヒステリックになるのではないか。単に教職員の経験の中で語り，エピソードとして伝えれば自ずと価値観が生まれると思う。 ・以前より良くなっていると思うが、仕事の見直しは常に行えばよいと思う。

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。　ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。